栄養療法の重要性について議論

～ＮＳＴ活動を中心に～

第１８回府国保地域医療学会

第１８回府国保地域医療学会は、１０月４日、京都市上京区のルビノ京都堀川に、府内９施設の医師、看護師、事務・技術職員、市町の職員､保健師、府国保連合会の職員ら約１６０人が参加し開催された。

欧米ではすでに重視され、日本でも注目され始めている「栄養」を中心テーマとして、講演や討論など熱心な論議が繰り広げられた。

片田住夫府国保診療施設協議会副会長（会長代理）の開会挨拶に続いて、今回の学会長である奥田聖介京丹後市立久美浜病院長が挨拶。「栄養」と聞いてもまだなじみが薄いが、近年になって注目、重視されてきており、診療報酬にも栄養の項目が加わるなどの背景から今回は「栄養」をテーマにしたと説明。「栄養」は褥瘡やリハビリ、感染力などに大きく関わってくるのだが、今までは等閑にされがちだったので、今回をきっかけとしこれから力を入れていきたいと述べた。来賓挨拶は山田啓二京都府知事の祝辞を、府健康福祉部医療保険課の西垣義郎課長が代読した。

午前の研究発表は、伊根町国保本庄診療所の細見史雄所長を座長に、医師、事務、技術職の４題、京丹後市立弥栄病院の梅田智恵子総看護師長を座長に看護師らの４題、さらに府市町村保健師協議会の霜山美穂会長（舞鶴市保健師）を座長に保健師の２題の計１０題が行われた。これらを巡って看護師の発表にフロアの病院関係者から質問が出るなど予定時間を超えて熱心な論議が交わされた。

特別講演をしている西口外科部長

午後の特別講演は、大阪府・大阪市立総合医療センターの西口幸雄外科部長が「NST と栄養について」のテーマで、栄養療法の重要性を示し、症例を参考としながら大阪市立総合医療センターで行なわれている NST 活動の成果について話した。西口氏の説明によると、栄養状態が悪いと、手術などの治療に関しても、術後の回復に関しても、またそれだけに限らず全てにおいてマイナスの影響を与えるという。この事実に対して、NST は適切な栄養処置を施すため、医療費の削減や安全な医療に貢献できると述べた。

西口氏は、現在 NST は広まってきているが、栄養療法の重要性をさらに理解し、今後一層 NST が拡大、充実するよう呼びかけた。

パネルディスカッションは「栄養」をテーマに、公立南丹病院の梶田芳弘院長を司会者にして行なわれた。まず、京丹後市立久美浜病院外科医長の八幡武司氏が「当院における NST の取り組み」、公立南丹病院の船越千里看護師長が「創傷管理と栄養」、京丹後市立弥栄病院の近藤美保子管理栄養士長が「スクリーニングの見直し」、公立山城病院の草野由紀言語聴覚士が「当院の NST 活動～言語聴覚士の立場から～」と、テーマである「栄養」に関する活動の体験を発表した。

発表についてフロアから質問や意見が出され、助言者の西口外科部長は「患者に対してしっかり目を向けて本物のＮＳＴを目指して頑張ってほしい」と感想を述べた。

パネルディスカッション発表者